

優秀賞

「ありがとう」の重み

岡山県 倉敷市立福田中学校一年 小橋 瑠空

「変わらず元気でいよう。」
と言って、父は今朝も仕事に出かけた。この「変わらず」の難しさと、有難さを、改めて痛い程感じさせられる今年の夏だ。

六月末から降り続けた雨は、台風と重なり豪雨となって、七夕の朝、倉敷市真備の街を破壊した。真備は車で行けばすぐの所で、何度も川遊びに行ったことがある。高梁川は広くて穏やかに流れる川だ。今回氾濫した小田川は、高梁川に流れ込む小さな川である。いつも通りであれば。テレビでは茶色の固まりのうねりの濁流が、ゴジラが暴れるように街を破壊していく様が何度も何度も映り、死者や行方不明者・浸水被害の数字を繰り返すアナウンサーの声で、私の心臓は、じわじわと不穏の鼓動を打つ。今まで災害の映像を見た事が無い訳ではない。だけど今回はこんなに酷い災害がこれほど身近で起こって

驚いた。怖かった。私にも何か出来る事はないかと考えた。同じ思いの友達と箱ティッシュ・熱冷ましート・タオル・飲料水など、思いつくものを水島小学校に届けた。少しでも役に立ちたかった。

記録的猛暑が追いうちをかける中、先週末までの十日間、父は被災地へボランティアに通った。日ごとに、父は日焼けして帰ってくる。それでも、いつも通りの父で帰ってきた。会社で集合し、乗り合わせて現地に行き、五時頃に作業を終え、会社に帰ってから車やスコップを洗って片づけて、着がえてから帰宅してくる。最初のうちは、洗濯が無理な程、臭いと泥汚れがひどい服は捨てていたようだ。帰宅したらすぐお風呂に入った。私も役に立ちたくて父の服を洗濯機で回す。

「大変だったじゃろう。もっともっと疲れて帰ってくるんだと思っとった。」

「疲れとるよ。暑くて暑くてしんどくてなかなか作業が進まんで余計えらいけど、あの場におったら少しでも頑張ってあげんと思って思う。朝よりも少しは片づいた。ほんの少しじゃけどな。少しずつかもしれんけど確実に復興に向かってるから希望はある。出来ることを頑張ってるだけだよ。水を吸った畳は重たいし、水中ポンプで水を吸いだした床下にもぐっての作業は大変だし、ドロドロの汚い水は臭いし、ふと横を見たら内臓の出た猫はいるし、熱中症で救急搬送される人が出るし、道には動かせん水没車はあるし、渋滞はあるし、二階より高いほどのゴミはあるし。それでも今動ける人が動かんよ。あのな、『ありがとう』の言葉には深みと重みがあるんよ。被災者の方がかけてくる『ありがとう』は、心の奥の奥から出たのが伝わり、明日も頑張ろうと力をくれる。」

と父は笑って話してくれた。

昨日と変わらなかつたであろう人々の悔しさや嘆き。父の「今日も変わらな元気でいよう」という言葉の意味は深い。今週末から、また父は被災地に行くそうだ。私は帰ってきた父の汚れ物を洗濯しようと思う。

